

まちづくりに想う 【篠原 康明（専門分野：まちづくり）】

FellowLink 倶楽部 2014/01/01 #6 に寄稿

「まちづくり」には明確なる定義がなく、都市開発あるいは地域社会の活性化など、時代やその人の関わり方如何で、様々な捉え方がされているのが実態ではなかろうか。

国にとっての国力向上、自治体や地域社会にとっての税収増加、雇用創出、産業活性化、中心市街地活性化、住民にとっての利便性やコミュニティ形成等、様々なニーズがあると思うが、私は、人を育む器づくりこそが、まちづくりの原点であると考えている。新たなまちづくりであれ、まちの再生であれである。

21世紀の都市というと兎角、先進情報機器等で装備されたメカニカルな都市をイメージしがちであるが、我々が真に追求すべき都市はこのようなものではないはずである。

最近の傾向として、舞台の作り(利便性の追求)に目を奪われ、主役の動き(人間性の追求)を見失いかけているような印象を禁じえない。「人間を育み、安らぎと明日への活力を与えてくれるような都市」こそ、我々が真に求めるまちの姿と考えている。

こうしたまちづくりを進めるためには、我々一人一人が、子孫に残すべき都市・まちの在り方に強い関心を持ち、知恵と力を惜しみなく提供できるような環境作りが不可欠と考えている。オーバーな表現になるかもしれないが、歴史に評価されるような、あるいは子孫に自信を持って引き継げるまちづくりこそが、本来のまちづくりと考えているが如何であろうか。

まちづくりは、子供の教育と相通ずる所があるように感じている。子供の人格形成は、その後の学校教育や社会教育によるところが大であるが、まちづくりも然りである。理想的なまちづくりには、行政や住民等がまちづくりの期待像を共有し、連携してそのまちを育てて行こうという姿勢が不可欠であり、その姿勢が、子孫から評価されるまちづくりへと繋がって行くものと信じている。

私は仲間と共に、秋葉原駅前再開発構想を提言し、その後も東京都等の行政機関と連携して事業化を支援させて頂いた。提言の背景には、「我が国の優秀な人達が、米国のシリコンバレー等に出かけて夢を追いかけている姿を見るにつけ、こうしたチャレンジ精神を持った人達が秋葉原に集まり創造的活動をしてくれたら、そして更には、彼らがつくば学園都市や丸の内働く人達との交流を梃子にして、海外へと事業展開して行ってくれたら」との思いがあり、「ニュービジネスクリエイティブタウン」構想として行政に提言させて頂いた。その後、関係者との素晴らしい出会いに恵まれ、極めて短期間で事業化は進み施設は整備されたが、期待像の実現にはまだ多くの時間を要するようである。

こうした形で新たに歴史を刻み始めた再生秋葉原が、当地に愛着を感じておられる人達によって、世界から注目されるようなクリエイティブなまちに育て上げて行ってもらえたら素晴らしいまちになると期待している。

日本専門家活動協会（Japa）での活動等を通じ、私もこうした理念に基づいたまちづくり(人を育む器づくり)に今後も寄与して行けたら幸いと願っている。